

# 経済透視図

⑤4

近年、世界中で晩婚化が進行しており、不妊治療件数は増加傾向にある。日本においても2019年には6万

598人が生殖補助医療（ART）により出生しており、日本産科婦人科学会によると前年比約6%増加した。生殖補助医療には、体外受精・胚移植、顕微授精、凍結胚・融解移植が含まれる。同年の出生数が86万人である

## 不妊領域における新技術

（A）を取り上げた。胚の染色体数異常は不妊の要因の一つとして同検査は、着床前に胚染色体の異数性（染色体の過

娠成績の改善を目指す子宮内フローラ検査を取り上げたい。古くは子宮内には菌は存在しないと考えられていたが、近年の研究で微量細菌が存在していることが明らかになっている。次世代シーケン

## 支援策拡充で普及期待



SMBBC日興証券  
第二公開引受部  
IPO  
アナリスト課  
高橋 政治

妊娠成績の向上が研究により示されること、国内でも同検査が普及していくと考えられる。次に、子宮内菌叢のゲノム解析によって妊

（隔週水曜日に掲載）